

# ① 自然教育園におけるオオタカの 初繁殖について

川内 博\*・遠藤拓洋\*\*・本多菊太郎\*・島田 一\*

The first breeding of Northern Goshawk in the Institute for Nature Study

Hiroshi Kawachi\*, Takumi Endo\*\*, Kikutaro Honda\*, Hajime Shimada\*

## はじめに

オオタカ *Accipiter gentilis* Northern Goshawk は、かつては自然教育園においては上空を通過する稀な鳥として記録されていたが、1990年代になると冬季にはときどき姿を現すようになった(武藤, 2001)。筆者らが2012年11月～2015年10月にかけて月1回のセンサス調査を行った時には、2013年3月と2014年1月～4月にかけて1羽を記録した(川内ほか, 2015・2016)。また、2013年2月に写真撮影がされていたほか、最近は冬季にはしばしば観察されている。

今回、2017年・2018年に園内で初めて繁殖が記録されたので報告する。

## 調査方法

調査は、園内で毎月センサス調査を行っている川内博、本園研究職員の遠藤拓洋、園内で生物を撮影している本多菊太郎・島田一による観察・写真撮影記録、定点によるビデオ撮影記録を中心にまとめた。また、一般入園者の目撃記録も参考とした。

## 調査結果

### 2017年の繁殖状況

オオタカは2017年には冬季にしばしば目撃されていたが、4・5月にも生息が確認され、しかも2羽ということで繁殖の可能性を期待しながら観察していたところ、春先に園路沿いのアカマツにあったカラスの古巣を利用して営巣した。正確な開始日は不明だが、撮影記録より少なくとも2月24日時点で利用が確認されている〔写真①〕。巣は園路の真上(地上高約18m)で、巣自体が来園者から見える場所であったので、カメラマンなどが滞留し、繁殖への悪影響や一般入園者の通行の妨害などが心配された。

---

\*都市鳥研究会, Urban-Bird Society of Japan

\*\*国立科学博物館附属自然教育園, Institute for Nature study, National Museum of Nature and Science

営巣した番いが若かったためか、繁殖行動が不明瞭で、5月1日に抱卵交代と思われるような行動が観察され、その後も抱卵姿は見られたが〔写真②〕、期間が長く一時は無精卵かと推測された。しかし、6月4日に一般入園者立入り禁止の林内の定点（以下、定点とする）からの固定のビデオカメラ（以下、固定カメラとする）で2羽のヒナが確認され〔写真③〕、本園で初めての繁殖に成功したことが確認された。

しかし、直後に一般入園者から巣にカラス（ハシブトガラス）が止まっていて、巣内から何かをくわえていたという情報が寄せられた。実際その後ヒナの姿は確認できず、6月6日にはオオタカの声が聞こえなくなり、6月11日はビデオに終日オオタカの姿は映らず、巣を放棄したことが確認された。〔表1〕

表1 2017年観察記録（抜粋）

月/日	親	雛	観察状況	記録	撮影
5/28	2		抱卵中	写真	鳥田
5/31	2		抱卵中	写真②	本多
6/4		2	定点カメラにてヒナを確認	写真③	動画
6/6			オオタカの声が聞こえない		
6/11			定点カメラに終日映らず・巣の放棄を確認		動画

### 2018年の繁殖状況

2018年には春先営巣場所を探す2羽が観察された。最終的には昨年営巣した古巣に定着し、5月6日には園路から抱卵していると思われる行動が観察された〔写真④〕。5月18日からは林内の定点カメラでの撮影が開始され、巣内の状況が記録されるようになった。6月5日にはヒナ1羽が映し出され〔写真⑤〕、6月9日にはヒナ2羽が確認された。ヒナはその後も順調に成長し、6月中旬には園路からも白いヒナが2羽見えるようになった〔写真⑥〕。6月29日には親鳥と同じくらいに成長した2

表2 2018年の観察記録（抜粋）

月/日	親	雛	観察状況	記録	撮影
5/6	2		巣で抱卵をしようとする姿を確認	写真	本多
5/27	2		巣で抱卵中の親鳥	写真④	鳥田
6/2			ヒナの鳴き声を確認		鳥田
6/3	2		巣で抱卵中と思われるが、既にヒナは誕生？	写真	本多
6/5	2	1	ヒナ1羽を確認	写真⑤	動画
6/22		2	順調に成長している2羽のヒナを撮影	写真⑥	鳥田
6/29		2	もう親と変わらぬ大きさの2羽を撮影	写真	本多
6/30		2	ヒナがネズミらしき餌を食べる		動画
7/3		2	1羽が巣の外から戻る（巣立ち確認）	写真	鳥田・動画
7/7	2	2	親よりモグラの餌をもらうが食わずに巣から放り出す	写真	本多
7/11		2	巣は空で、巣の近辺の木々で幼鳥が止まっていた	写真	本多
7/12			巣内のヒナ確認最終日	写真⑦	本多
7/12			幼鳥1羽が湿地の上空を飛ぶのを撮影	写真	本多
7/26		1	幼鳥1羽を確認。もう1羽は未確認	写真	本多
7/29		1	松の木に止まる姿を見つける	写真	本多
8/5		1	水生植物園の上空を飛ぶ幼鳥の姿を撮影	写真⑧	本多

2017年



① 園路上の巣 (2/24)

② 抱卵中 (5/31)

③ 巣内の雛 (6/4)

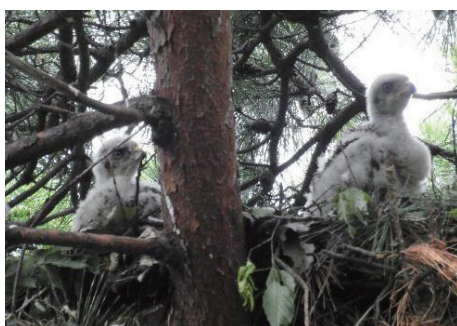
2018年



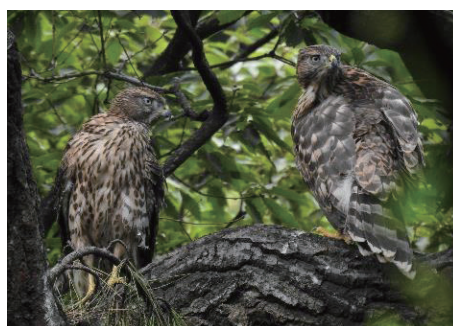
④ 抱卵中 (5/27)



⑤ 雛の初確認 (6/5)



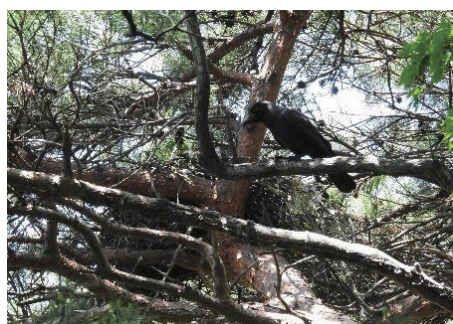
⑥ 成長した雛 (6/22)



⑦ 巣立ちした幼鳥 (7/12)



⑧ 巣立ち後の幼鳥 (8/5)



⑨ カラスが巣へ接近 (5/5)

羽が撮影され、7月3日には巣立ちが記録され、7月13日以降は巣内での姿が確認できなかった〔写真⑦〕。8月5日までは園内の各地で飛びまわる2羽の幼鳥や給餌する親鳥の姿が見られた〔写真⑧〕。〔表2〕

## 考 察

オオタカは、かつては「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」に基づき国内希少野生動植物種に指定されていたが、2017年に増加しているとの理由で指定が解除された。実際、関東地方では冬季を中心にその姿を見ることが多くなり、東京23区（以下、23区内と略する）での冬期の一斉調査で19羽が記録されている（日本野鳥の会東京、2016）。また、営巣も従来の奥多摩の山地だけでなく、市街地での記録も増えてきて、皇居（千代田区）では2001年に、明治神宮（渋谷区）では2007年から営巣が記録されている。さらに、非公表の営巣地は多く、現在23区内で二けたを数える状況である。

川内は、23区内の営巣地の現地を踏査して状況の把握に努めている。その営巣状況の特徴は、多くが公園などの緑地に造られ、営巣しているオオタカが「人を気にしない」ということである。多くの場所でアマチュアのカメラマンが夜明けから夕刻まで、その姿を追うという状態が続いている。しかし、極端に巣に接近するなどの行為がない場合、オオタカは人の存在を気にせず、営巣を続けている。今回の本園での営巣場所も、園内で一番人通りの多い園路の真上という環境である。本園の場合、巣の近くで撮影・観察のために長時間立ち止まる・三脚をたてるなどの行為は他に比べあまり目立たないが、営巣は今後も続くと思われるので、カメラマンへの対策をたてる必要がある。

次いで23区内での営巣で問題なのは、緑地に多数生息するカラス（おもにハシブトガラス）による加害である。杉並区内の公園で繁殖した時には、20羽以上のカラスに巣が襲われ、2羽のヒナが死亡した例がある。本園も多数のカラスが生息しているので注意していたが、2017年には襲われた可能性が高い。2年目も巣に近づいたとの事例もあったが（写真⑨）、とくに被害は生じず、2羽のヒナが無事育った。今後も本園でのカラスとオオタカの関係に注目していきたい。

## 引 用 文 献

- 川内 博・大塚 豊・丹羽和夫・川内桂子, 2015. 自然教育園における繁殖鳥の状況. 自然教育園報告 (46) : 33-46.
- 川内 博・大塚 豊・丹羽和夫・川内桂子, 2016. 自然教育園における2010年代前半の生息鳥類について. 自然教育園報告 (47) : 29-51.
- 武藤幹生, 2001. 自然教育園の鳥類の季節変動について. 自然教育園報告 (33) : 363-377.
- 西海 功・黒田清子・小林さやか・森さやか・岩見恭子・柿澤亮三・森岡弘之, 2014. 皇居の鳥類相 (2006年6月 - 2013年6月). 国立科学博物館専報 (50) : 541-557.
- 日本野鳥の会東京・研究部, 2016. 冬期の東京23区に「オオタカ19羽」をどう考える. ユリカモメ. No.728 : 8.
- 柳澤紀夫・川内 博, 2013. 明治神宮の鳥類 第2報. 鎮座百年記念第二次明治神宮境内総合調査報告書 : 166-221. 東京.